

政策評価調書(21年度実績)

政策名	知恵を出し汗をかいてもうかる農林水産業の振興		政策の目的等 消費者ニーズに応える商品づくり、競争力のある産地づくり、時代に対応した力強い担い手の確保などに重点的に取り組み「元気で魅力ある農山漁村、知恵を出し汗をかいてもうかる農林水産業」の実現を目指す。	主管部局名	農林水産部
	政策コード	Ⅲ-2		担当課室名	農林水産企画課

【政策を取り巻く社会経済情勢】

今後 の 動 向	<p>農林水産業を取り巻く環境は、消費者ニーズや流通形態の多様化、高齢化等による従事者の減少などに加え、原油・飼料価格の高騰や景気後退による農林水産物価格の低迷など、急速に変化し、厳しさを増している。</p> <p>こうした中、本県農業は、平成20年の農業産出額が2年連続で前年を上回ったものの、九州では下位に低迷するなど、まさに試練の時を迎えており、22年までを農業再生の正念場と位置づけ、22年の農林水産業産出額2000億円を達成し、知恵を出し汗をかいてもうかる農林水産業を早期に構築することが重要な課題となっている。</p> <p>このため、生産者基点から消費者基点に軸足を移した商品づくりや量販店等の大量・周年出荷の要望に対応できるよう県域での生産・流通体制を構築することが重要となっている。また、これを支える力強い担い手の確保・育成が喫緊の課題であるため、農業分野への企業誘致の推進など施策や支援を集中重点化するとともに、地域資源を活用した他産業との連携によるニュービジネスを推進し、もうかる農林水産業を実現する必要がある。</p>
-------------------	---

【政策を構成する施策の評価結果】

施策名		評価結果		政策との 関連度
		業績評価	主管部局評価	
1	戦略ある商品づくり	概ね達成	拡充	◎
2	効率的で持続性のある生産体制の確立	達成	現状維持	○
3	時代に対応する力強い農林水産業の担い手づくり	達成	現状維持	◎
4	地域資源の活用と産業間の連携によるニュービジネスの創造	概ね達成	現状維持	○

【構成する施策に対する意見・提言】

<p>○「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会産業振興部会での委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景気低迷で野菜等の価格が下がっており、指標設定において産出額とは異なる方法論を検討する必要がある。 ・消費者の考え方が大きく変わってきている中で、戦略品目のマーケットをどこに求めるかの見極めが重要である。 ・大分方式乾燥材については、国際標準規格であることをPRしながら、実際に活用する建築士への売り込みを検討してはどうか。 ・中国マーケットは将来性がある。実際、椎茸や冷凍ブリフィレなどの引き合いがあるが、実現するにはロットの確保がネックとなる。 ・生産量に応じた市場の見極めが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手確保については目標を達成しているが、10年先を見据えると、この数字に甘んじるわけにはいかない。 ・学校給食で地元の食を伝え、その中から次代の農業を担う人材が出てくるようになると、将来に期待が持てる。 ・最近では、食品表示等の生産者負担が大きく、個人事業者では対応できないことが懸念される。行政の支援ができないか。 ○県政ふれあいトークでの意見 ・農産物を加工・販売したいが、安定的な販売先が見つからない。 ○振興局普及指導活動中の生産者からの意見 ・魚価低迷により所得が減少しており、販路開拓や加工品開発が必要。
--	--